

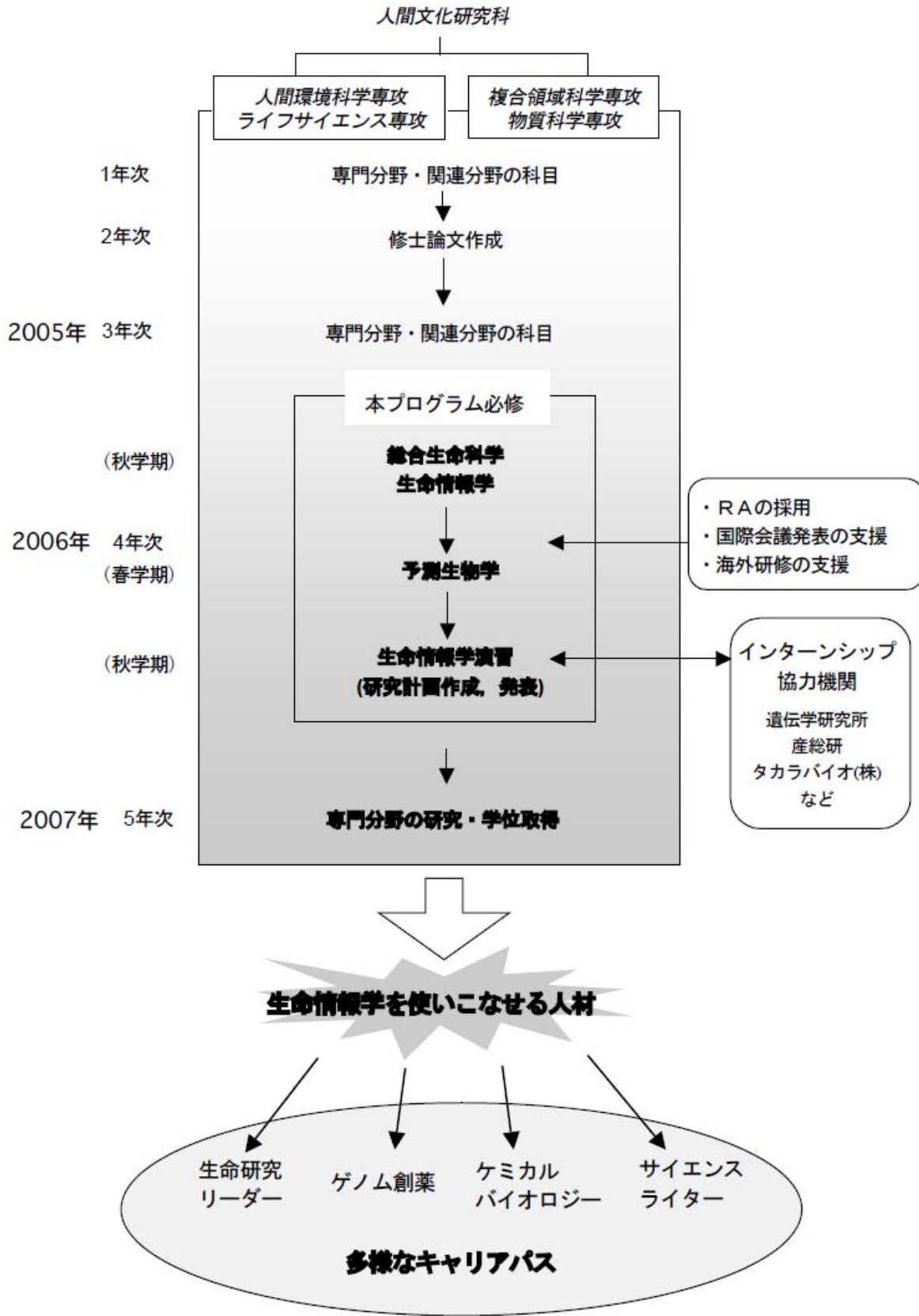
## 平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	お茶の水女子大学	整理番号	b017
1. 申請分野(系)	理工農系		
2. 教育プログラムの名称	生命情報学を使いこなせる女性人材の育成		
3. 関連研究分野(分科)  (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) その他理工農系分野を主とする複合分野		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (生体生命情報学、遺伝・ゲノム動態、構造生物化学、システム生物学、生命倫理)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 <small>([ ]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)</small>	(主たる研究科・専攻名) 人間文化研究科・ライフサイエンス専攻〔前期課程〕 人間文化研究科・人間環境科学専攻〔後期課程〕	研究科長(取組代表者)の氏名  平野 由紀子	
	(その他関連する研究科・専攻名) 人間文化研究科・物質科学専攻〔前期課程〕 人間文化研究科・複合領域科学専攻〔後期課程〕		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>本事業は、21世紀の生命科学の発展において不可欠でありながら、まだ十分な大学院教育のプログラムが組み立てられていない「生命情報学を使いこなせる女性人材の育成」を目的とする。女子高等教育の長い伝統をもつ本学は、数多くの先駆的な女性科学者を世に送り出してきた。共学の時代となっても、この伝統は絶えることがない現状がある。本学は、女性研究者、特に社会において指導的地位を占める女性の積極的な育成を、本学大学院としての使命のひとつとして、教育と研究活動を進めている。</p> <p>21世紀の生命科学は、既存の生命科学に加えて、生命情報学を中心に、物理学、化学、数学、コンピュータ科学など、理学におけるあらゆる分野の基礎と、人文社会学による新しい生命観や生命倫理を習得できる教育プログラムにより、深い洞察力に加えて、新しい生命科学を推進するための広い意味での「生命情報学」を習得した研究者を必要としている。平成17年4月に就任した学長の郷通子自身が、本学理学部物理学科の出身でありながら、大学院で生物物理学を習得、その後、生命情報学の分野の開拓に実績を持つことから、生命情報学は女性の進出に適した分野であることを体験してきた。その経験を生かしながら、生命情報学を使いこなせる女性人材を世に送り出すため、本学の重要課題として新規ポストの充当など、学長のリーダーシップのもとで、本事業を進める計画である。</p>			

機 関 名	お茶の水女子大学	整理番号	b017
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>生命情報に関する教育と研究は、これまで教員の個別の活動として行われてきた。理学部では生物学科と化学科、大学院においては関係の教員が所属する複数の専攻において、遺伝学、集団遺伝学、分子進化学、細胞生物学、発生生物学、構造生物学、生化学などの分野で、ゲノムや進化を視点に入れた講義が早くから行われていた。本学大学院の学位取得者や修士課程修了者の中には、生命情報学の分野で国内外において高い評価を受けている者もいる。また、学部の全学共通科目のなかでも、文系理系を問わず、生命科学に関心と理解を深める内容の基礎ゼミやコア・クラスター（テーマをしばった講義群）を実施してきた。しかし、このような教育内容を学科や専攻をこえたプログラムとして学生に提供し、特に急速な発展を遂げつつある生命情報学の分野を多様なバックグラウンドをもった学生が学ぶとともに、それぞれの専分野にフィードバックすることを学ぶ体制は、まだ整っていない。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>本プログラムは、博士後期課程の2年間に生命情報学の教育を提供するものである。それぞれの学生が専攻する研究テーマに新しい視点を与え、それに基づいて新規の研究計画を立案する方法を学ぶことにより、専門分野に関する高い専門性をもって生命情報学をも使いこなし、自ら思考し提案できる女性研究者、また、生命に関して社会へ正しく情報発信できる人材の養成を目指す。</p> <p>生命科学の諸専門分野の講義においては、多様な生命情報をリンクさせ、それぞれの専門分野における情報の意味を理解し、全体を体系づける。さらに、生命情報学の基礎的な講義、コンピュータを用いたデータ解析などの実習を含めたプログラムを実施する。また、当該専攻外からの協力者による講義や、単位互換制度に基づく他大学院の講義の履修を以って、カリキュラムの充実を図ることにより、情報のもつ意味を理解し、独創的に活用できる人材を養成する。さらに、学生の海外での研修や国際学会における研究発表などを積極的に支援し、国際的にも通用するレベルを目指す。また、ゲノム情報という視点をふまえた社会への啓蒙活動という観点からも、生命倫理、生命観に関する講義や演習を取り入れる。</p> <p>このプログラムは、生命科学に関する基礎的な内容を修士課程までに修めた学生であれば、従来の専攻にとらわれずに自由に履修できるものとするが、学生はそれぞれの専攻に所属して学位論文の研究を行いながら履修するという専門性を重視する。後期課程においてこのプログラムを重点的に履修することによって、生命情報学の専門家養成も期待できる。このプログラムを核とすることにより、本大学院における教育研究分野の融合をはかり、新しい生命情報学分野の整備を促進していくことが可能となる。このことは、多様な人材養成に対する社会からの要請に対応するとともに、女性のキャリア獲得への寄与につながるものである。</p>			

6. 履修プロセスの概念図



機 関 名	お茶の水女子大学	整理番号	b017
<p data-bbox="165 199 588 232">&lt; 審査結果の概要及び採択理由 &gt;</p> <p data-bbox="165 293 1428 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 488 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 533 1428 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 629 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 678 1428 857">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が非常に優れており、十分期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。</p> <p data-bbox="189 871 1206 904">なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 965 635 999">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="165 1014 1398 1285" style="list-style-type: none"> <li>・生命科学領域での現代的ニーズと女性研究者育成に関わる問題点を的確に分析し統合した優れた取組である。男女共同参画の推進の観点からも、生命科学分野における女性研究者の育成は時宜を得ており、社会的な説得力もある。現実問題としても、「生命情報学」の人材が逼迫している現在、生命情報科学を使いこなせる女性人材の育成は極めて有効であり、家庭との両立という側面からも重要な領域と位置付けられ、指導するための人材が確保されれば、今後に大きく期待される教育プログラムである。</li> </ul>			